



居候狐の 躰け方

—ある何かユーザの場合—

CG集

18禁
成人向け



ある日ことー

夜遅くにユーザが自宅へ帰り

玄関のドアを開けると、居間の方から耳慣れない振動音とあざみの喘ぎ声が聞こえてきた。

それを不審に思ったユーザは、できるだけだけ物音を立てないように、玄関のドアを閉め、居間のふすまの陰まで移動してとりあえず中の様子を伺うことにするのであった…

※セリフの色…ユーザ

あざみ



はあ……あ
ユーザ……あ
あっ……♡♡

……。
私をお呼びかな、あざみ？

(ワイワイイイ……)

(ガッツ)

えっ…!?
ゆ、ユザ…!?
いつの間にか帰って…!

君が行為に夢中になっている間に、だめ…
聞こえなかったのかい?
まったく…
家主の留守に君は「体十二」を…



あっ...!?
ちゅちゅちゅ...
違っんだよ...!
こ、これはその...!

ほっ、そっか、違っのかい。
じゃあ本当は一体なにを
していたのか
教えてくれないかな?



え…
お、教えて…?

今さっき君が
「違う」と言ったじゃないか。
私にはどう見てもその姿は
「家主の留守にひとりエッチに夢中な」
姿にしか見えないんだけどね…
何がどう違うのか、ぜひ教えて欲しい。
誤解があったら悪いからね。
ほう、何が違うか言ってみようか?



あ、いやだから…
こ、これはただね…
う…その…

何もいえない？
つまりこれは私の見立ての通りの
状況だったわけだね？
おまけにその使ってる道具は
私がかっそり購入しておいた
大人のオモチャじゃないか…
いつの間にか人の私物まで持ち出して…
あざみ、悪い子だ…



「あたしはユーザの私物で
ひとりエッチに夢中になるスケベな狐です」
…はい、復唱してみようか」

え…なに…?
な…なんで
あたしが
そんなこと…!

おや、反省の色が見えないね?
君は人の私物を勝手に持ち出した上に
嘘までついたんだよ…いいのかい?
私は嘘つきに居候を許すほど
優しくはないよ?

…っ…



あ、あたしは…
ユーザの私物でひざりエッチに
夢中になるスケベな狐です…
ご、ごめん…
…なさい…



よくできました…
そう、人付き合いというのは
やはり正直であることが大切だ。
それに謝罪の言葉もあったし、
あとはどうだね…

一応、はじめだけは
つけておこうか。

(ポロソ)

ちゅっ…
ゆ、ユーザ!?
い、いきなり
何出して…!

フマ、何で…
見てのとあいの
私の息子さん…



そっじゃなくて！
何でソシを出す
必要がって…！

理由かい？
簡単な話さ。
君が私の私物でひとりエッチ…
ならば私も
君の痴態でひとりエッチ…
これでこそ物事の公平さが
保たれるというものさ。
まあ…二種の罰だと
思ってもうって構わないよ。
言葉だけの謝罪では
罪の意識までは
洗い流せないものさ。
そっだろっ？

そ、そっか…うさじも、
だからって…
擦るのさめっ…





う...う...
...う...う...



(ごNONご...)

うあ…
うあ…
うあ…

ふっ…
さて、ひとまずこれで
ひとりエッチの件は
カタがついたわけだけど…
困ったね…
ひとつ別の問題が残っているよ。
それは君が持つ
「こいつの行為に及んでしまう精神性」だ。
ここを直さない限り、
君は何度でも
同じ過ちを犯すだろう…



それを直すために…
服を脱ぎなさい、あざみ。
今から外へいくから。

えっ…
な、なんで外…?
いや、その前に…
外へ行くのに…
なんで服を…?
意味が全然…
分からないんだけど…

ん？なんだいあざみ…
この期に及んで口ごたえかい？
今の君は私に逆らえる立場だったけ？
いやまあ…別に私はいいんだよ？
居候のあざみ君？

っ…



.....
わ、わかったよ..
わかったから..
.....

そうか、
わかってくれたかい。
聞き分けのいい子は
嫌いじゃないよ。
フフ..
さで、それじゃあ
行こうか





数十分後――

自宅近くの深夜の路上には
首輪とリード以外に身に着けるものの無い
裸のあざみの姿があった。

有無を言わさぬユーズの
強い態度に押し切られての
いわゆる野外露出である。

夜遅くということもあって
人影はほとんど見当たらないが、
周囲から何かの物音が聞こえるたびに
あざみはその身を道の暗がりには隠そうとした。

しばらくはそうして無言でしぶしぶ
ユーズの後を歩いてきたあざみだが、
ついに耐え切れなくなったのか
その場に座り込んでしまふのであった。

ゆ、ユーズ…
まだ歩くの…？
も、もくろくじつちゅ…？

なにを言ってるんだい、あざみ。
まだ外に出て大して経ってないだろう？
それとも私の家での居候を
やめる覚悟でもできたのかな？

い、い…
ぞくじつちゅ…



ほ、ほらわ…
あたしも人間として暮らしているよ
知り合いもいるわけ…
いくら深夜だからってこの辺りは近所だて
その…危ないところか…



ふむ、つまり…
知り合いに見つかったら恥ずかしい…と？
そう…今の君に必要なのは、
その「恥を恥として感じる気持ち」さ。
これはそのための野外露出なんだよ、あざみ。

な、なにそれ...?
どっけいってこと...?

君がさっきしていた行為は
「恥ずべき行為」...
だがそれをしてしまったという事は、
君はいわゆる「恥知らず」じゃあけた。

酷い言われようだね...

まあまあ...要するに
こうして恥ずかしいことをして
「恥を恥として改めて知る」経験こそが
君の精神性を更正するための
良い手段ということだよ。わかるかな?

なんだかただのこじつけにも
聞こえる気もするけど...



はぁ……わかんないよ。
ユーズの気が済むまで引き回せばいいよ。
それじゃいいわね。さっさと
もう知ったって、ちがちならぬ……

おやおお、ちがってほちになっちゃったね。
それじゃいけない、意味が無いよ。
……まあ、そうだね。
初日と違って、ちがってさ。
今日は、ちがってさ。

「今日も……」



わんわんしやう...
「一定」の行為にも
「区切り」をつけておいた。

う...
また...?

何事にも
はじめというものは
必要なもの...
それにこうして
興奮を抑えながら
裸の君を連れ回すのも
なかなか苦しいものでね...
君の訓練に付き合っただけ
対価みたいなものさ。



はあ……
でもこれで終わりだね……？
じ、じゃあ早く
帰ろうよユーザ。

……

……っ？
ゆ、ユーザ……？
なんで黙って……





も、もしかして
「綺麗にして」って言いたいの…？

●●●●●●●●●●

●●●●●●●●●●



ふん...
ふん...

.....

わかったら、すねるわ...
もう...んっ...

うあ…はあ…
ま、満足した、ユーザ？
だったら早く帰…



まったく…
君にはがっかりだよ、あやみ…
野外露出でぶっかけられたと聞いて、
すぐに自分から相手の股間に
むしゃぶりつくたなんて…
結局、君には恥とはなにかが
分からなかったよ…

えっ、なに言ってる...!!
だ、だって今のは
ユーザが綺麗にっ...!!



私はそんなことを一言も
「言っ」てないんだよ、あざみ。
君が本当に恥を知るなら、
股間を突き出された時に
突っはねることをだっでできたはず...
それを君が勝手に
そう受け取ったんじゃないか。
そうだろう？

そ、そんな...
そんなの...

君に恥を教えることは
出来なかったってわけか...
どうやら君のスケベさの原因は
もっと根の深いものらしい。
まあそれならそれで他の手があるぞ。
...じゃあ、一旦家に帰ろうか、あぞみ？

うん...
うん...



帰宅後――

汁まみれのあざみを一旦綺麗にするとユーザは使っていない部屋にあざみを招きその手首に手枷と縄を繋げ始めた。

無論、あざみにとってこんな拘束はその気になれば簡単に壊せるのだが、そんなことをしてはユーザに何を言われるか（されるか）分かったものではないので諦めておとなしく拘束されることにした。

しばらく部屋を出ていたユーザが戻ってくると、その足元にはぶよぶよとした粘液状の生物：スライムの姿が見えた。

いきなりのことにあざみが呆気にとられてみると、ユーザの指図でスライムは素早く動き、あっという間にあざみの体にまとわりついてしまうのであった。



な、なな…
ゆ、ユーザ!?
こ、これは一体なに…!?

見てのとおり、スライムで。
君だって化物退治を
生業にしているなら
そのくらい知っている
はずだろうに。

そっじゃなくっ！
なんでその化物を
けしかけるのかで
聞いて…
というか、
どこから調達して…

あざみ…私は何かユーザだよ？
何かユーザに不可能はない。
加えて言うなら、そいつは
媚薬成分を分泌する特殊なスライムで。

え、な、なに…媚薬…？

今から君には
そいつからの攻めに
耐えてもらう。

恥を恥として
認識できないのなら、
今度は

「快楽を拒絶する忍耐力」を
養おうというわけさ。

攻めに絶頂せずに
耐え切れれば

君の精神性が
改善されたと

見なそうと思う。

ぞ、そんな滅茶苦茶な…





荒療治に無茶は付き物だ、
諦めどほし。
さて……
ぞろぞろ始めようか

ま、待ってユーザ……
うわっ……!?

（おたあおたあ）

うあぁ……っ！！
っ、これ……
キツ……

確かに
その攻めに抗うのは
大変だろうが……
これも君の今後を
思っていること。
是非がんばって
この試練を
乗り越えて欲しい！

か、簡単に言ってくれなよ……
う、あぁ……！！





おや...!?
もしかしてもう
イっちゃったのかな?
だとしたらあまりにも
期待はずれだけど...

ふっ...ふっ...
うん...うん...!!?

改めて聞くけど…
今のイッチャった？
それとも私の勘違いかな？

はあ…はあ…
ち、違つよ…
今のは…
イッてない…

あ、そつ？
私の勘違い？
ならよかった。
君はあの攻めに
耐えたわけだね。

う、うん、そつだよーザ…
た、耐えたんだから
もっいいんだよね…？
早くこれを外し…





まあちょっと待ってよ、あざみ。
今の攻めに耐えられたのなら
せつかくだし、
もっと強い刺激に挑戦して、
もっと強い忍耐力を
養ってみないかい？
何事も挑戦さ。
なに、さっきの
耐えられたんなら
楽勝でしょ？

えっ!?
いいや遠慮しやへー
あたしは別に
そんな...

まあまあ、せつかくたさうわ。
それじゃあ、いっくらも?



ま、待ってユーザ……!

んぐんぐんぐんぐん……!?!

(ずぶずぶずぶずぶ……!)

さっきの攻めは
体の表面だけだったから、
今度は前と後ろの穴からも
侵入させて内部からも
刺激してもらおう。
なあに、さっきのが
大丈夫なら
これもいけるよね?



ま、待って…ユーザ…
さっきのは実はあっ…!
ぶぐぐぐ…!!?

ん？何か言った？
まあ、後で聞くとよ。
今はとっちに
集中しないと
耐えられないよ？

こ、これ無理…！
ユーザ、やめ…
やめさせ…う…！

んまぢまぢまっ!!?

おや…
今度は何かな、あぢぢ?
大丈夫かい?

あは…あぢ…

また私の勘違いだと
いけないからスライムは
制止しないまま聞くん?
何か言いたいことも?



い、今は…イッたから…!
か、勘違いじゃないから…!
だからもう止めて…!!

えっ、耐え切れずに
イッちぎったと?!

そ、そつたよ…!
ほ、ホントはさっきの
イッてたから…!!
もう無理だから…!!
は、早く…!!

なんだって?
そうか…実はさっきの
イッてたのかい…じゃあ…



嘘をついたことへの
オシオキもかねて...
続行だね。

ぞ、そんな...早くやめっ...!?

**んはあああ
ああああ
ああっ!!**





は……はあ……
あ、はああ……

そっか……
また唾をつけていたなんて
本当にシロクだよ……
どちらにせよ
これ以上は意味が無いから
スライムは止めるけどね。
この結果は残念だよ……

う……ごめん……
……なさい……



しかし…
恥も分らず、
我慢も出来ないとは…
まったく
どうしようもないね、君は。

ぞ、そんなこと
言ったって…！
こんなの
我慢できるわけが…！

フフ…
まあ、仕方が無いか…

でも安心していいよ、あざみ。
君がいくら我慢の効かない
スケベ狐だとしても
見捨てるようなマネは
しないからね……

……
今後の対策は
また考えるとして……
今日のようには
このくらいに
しておこうか。
お疲れ様、あざみ

……うん……うん……
わかったよ……





次の日――

昨日の続きをしたいとユーザに切り出されたあざみは言われるがままに裸にされ、首輪や手枷もつけられていた。

昨日の時点では今後の方針を決めあぐねていたはずのユーザであったのだが、今日のその顔は何かを思いついているようであった。

理由はあるにしてもユーザに対してまったく抵抗の意思が失せている自分に若干の危機感を抱きつつあざみはおおずとユーザに声をかけるのであった……

えっ…っ…っ…
今日ね…っ

あれから考えたけど
もう君の精神性態度を
改善するというのは
無理があると思うんだ。
君は我慢の出来ない
スケベ狐…
それはもう仕方ない。

…まあ…っ…っ…っ…

我慢ができないなら
我慢が必要ないくらいに
性欲を発散させてあげればいんじゃないかな。っ。



そうっ…
こんな風だね！
(トキギッ)

!?

あ、ゆ、ユーザが何人…？
あれっ…なに、なにこれ…!?



言っただろう？何かユーザに不可能はない！
分身がなんだね、分身くらいフラナリアでもできる。

そんな無茶苦茶…
でも、ないか…
ユーザだもんね…

わかってくれたかい、
では話を続けよう。
さっきも言ったけど…
要するに普段から君が
飽きるくらいスヶ会を
していれば、
隠れて逸脱行為に
及ぶこともあるまい…
と云う話さ。簡単だろうか？

いや…分身して乱交まがいのことを
普段からするのにも充分に逸脱行為だよ…

どうしてこんな簡単な事に
気がつかなかったのか…
不思議なものさ。

あたしの言った事
聞かせるよね、ユーザ？

では、今後の私達の
新しい門出を祝って
ここで祝砲といっしょかじゃないか！

.....



(びびNononono~!)

うあっ…
結局こつなるんだよね…
はあ…呆れるよ
ユザにも、自分にも…



ふう…おや、浮かぬ顔だね？
これは今後への景気づけも兼ねているんだから、
もっとこう…笑顔じゃないと。
ほう、笑顔！

え…あつん、
笑顔、笑顔ね…

何事も形からせよ。
そうだね…
いっそダブルピースでも
してみようか。
ほくら、
笑って、ダブルピース。
やっであつん。

……

え、さ...
こ、こつかな...?

おっ、いいね
笑顔が少しだけ
ぎこちないけど...
それがまた
別の味わいを
出しているよ。
そんな君の頑張り
私も応えないとね...
よし、じゃあもう「発」
くわい!



こ、こんな、感じ…？

うん、いいね。
初めてにしてほ
上出来さ！

まあ安心なさい。
焦らなくても
徐々にステップアップ
していけばいいだけの
話なんだから。

またワケの
分からないことさぎ…
うう…

やっど...
ウオーキングアップは
このくらいにしておいて...
じゃあ、次いでみようか？

う...
や、やっぱり
続けるんだ...？

最初に説明を
したじゃないか。
「飽きるほど」って。
それとも...嫌なの？

えい...
べ...
べ...
べ...

じゃあ...
じゃあ...
じゃあ...
じゃあ...

うん...
うん...
うん...
うん...



数分後



ゆ、ユザ?
こ、今度は何…?

フフフ…
待たせたわ、あやみ。
そろそろスタックアウト。
一回いってあげるわ。

あ…
じ、じゃあ…





そう、君がお待ちかあの
コイツの出番や！

(いっしょにっ)

べ別に誰も
待ってなんて
うわ……

その顔を見る限り
そんな風には見えない
けどね……まあいいさ。
それじゃあ、いっしょ？



(ずぶい)

う、あ...!?
ぞ、そんな
いきなり...っ!

いきなりもなにも...
そもそも君はこれが
欲しかったんじゃないのかい?
それこそ留守に
人の私物をもちだしてまで...

う...ぞ、ぞわはまっ
謝っただじゃない...

だからこれは
その事情を斟酌した上で
同じ過ちを犯さないための
行為なのだよ！
いきなりごころか、むしろ
遅きに失した感すら
あるといえる！
わかっているのかい！？

(…っ…っ…っ…)

うあ…っ!?
わ、わかったから…
あたしが悪かったから…
うああ…っ…
♡

ところでさっきから
左右の私もお待ちかね
なんだけどね、あぞみ？
惚けてないで
ちゃんと手を使わないで。

んっ…あ…
だっ…だっ…
びっ…びっ…

うん、いいよ
悪くない手さほぎだ。
やっぱり君は生まれながらの
スケベ狐だと今、確信したよ。
まったく仕方ないな君は…

な…
ぞ…ぞ…ぞ…



あっ...!?
はあ...あ...あ...♡♡

(ぐんぐんぐんぐん...)




今の嬉しそうな声を
聞く限りでは
私の認識に間違いは
なさそうに思えるけど…
どうかな、あざみ？

い、今のせ…
その…
うっ…おんごも…

フフ…まあ今のほうが
半分冗談だけだね。
さて…それじゃあ
一発普通にしたとていようぞ、
次は趣向を変えてみようか。

え、な、な…？



ただ同じでは
君がつまらないだろうから
内部にソリッドな物体を
取り込ませてあるのよ。
注入する時に抵抗があつて
君が楽しめると思っつね。

ま、まさかアシで
また入れる気...!?
ていうかアシは
一体なに...!?

この際なんでも
いいじゃないか。
石でも卵でも
好きなものを
想定するといいよ。

な、なんでもいっわが…
あっ…!?

(ぐわん)

相手を待たせるのは
良くないよ、あざみ。
とりあえず
体に害はないから
安心なさい。

ぞ、ちゃんと同様で
安心出来るわと…



（おっぱいおっぱい）

んぎゅんぎゅん...
んぎゅんぎゅんぎゅん!?

ま、まっごユーザ...!
これ、多い...!
む、無理...!?



も、もう無理だから…！
これ以上入らない…から…
もうやめ…うああ…♡

確かに限界みたいだね…
それじゃあそろそろ
スライムに出てもうおっか。
いいかい、あざみ？

ん…
ん…
ん…

あ……はあ……♡
あはあ……♡

どうだったかな？
思った以上に刺激的だった様だし、
ちよとした産卵フレイにもなった感じで
楽しかったんじゃないかな？
…あざみ？
おーい、あざみくん？



ふ…はあ…
うあ…はあ…
はあ…♡

完全に放心してるね…
ちと刺激が強かったかな…
まあちよといいや。
あざみが正気を取り戻すまでに
次の準備をしておこうかな…





立て続けに強い刺激にさらされた
あざみの意識はしばらく戻ってこなかった。

しばらくして――

あざみは自分の乳房に違和感を感じ
その意識を覚醒させるのであった。

ん…
あ、あれ…
あたし…?
ユ一ザ…?

目が覚めたかい、あざみ。
いい夢は見れたかな?

え、と…
確かあたしは…?

…



…ッ!?!?
な、なにこれ…!?!?
しかもなんだか
お、胸が大き…!?!?
ユ…ザ!?!?

順に答えよう。

胸についているのは搾乳機。

胸が大きくなった理由は

スライムの媚薬のせいさ。

副作用で母乳が出るように

なってしまうのさ…
長時間触れ合いすぎたせいだね。

母乳で…う、嘘…



そのままでは外出中にうっかり
母乳が溢れたりしかなない...
だから先に搾っておいて
あげようという
私の老婆心で...

ふ、副作用って...
何か他の治す薬とかないの!?

ない。

そんなキツパリと...



まあ副作用自体は時間で消えるから
安心していいよ。
ただそれまでは搾らないと
いけないから…
じや、搾乳機動かすね。

(グイグイグイ…)

え、ちょ…待っ…!?



ふ…あっ…!?
ああ…で、出てる…!?
本当に母乳が…
うああ…

想像以上の母乳量…
やはり人間じゃない君のために
業務用を持ってきて正解だったね。
まるで本当に牛のよう…

だっ…誰のせいだっ…
あっ…!?
はあっ…♡



おや、なんだか気持ち良そうじゃないか、あつめ？

ち、ちが…

気持ち良くなんて…

う…ふっ…♡

否定するってことはないよ。

授乳よって分泌される

オキシトシンとプロラクチンが

高揚感や副次的効果としての

性的興奮を呼ぶのさ。

しかしオキシトシンは子宮収縮も

起こし、それには不快感が伴っ…

そっで…!!



(ゴーン)

あ…!?
ま、また…!?

その時に子宮中を媚薬スライムで満たして媚薬効果でその不快感を緩和できないだろうか、と考えました。また副作用で余計に母乳が出そうなので、少し細な…です。

いやいや、ユーズ！
そこ大切なところじゃ…



ふっふっ……うっ……
お、お腹がこんなに……
あ、あれ……でも……
痛くない……？

よしよし、
どうやら媚薬による
鎮痛作用が期待以上に
出ているようじゃないか。
これは嬉しい誤算……
続けようか。



（グイグイグイグイ！）

（ぷぷぷぷぷぷぷぷ）

んぎっ…!?
あっ…
はあはあはあ
あああああッ♡♡



はっっっ…♡はっっ…♡

搾乳ももう充分だろうし、
とりあえず今日は
このくらいにしておこうか。
どうだったかな、あぞみ？



気持ちよかったでございませう？

それは……
まあ……うん……

フフ……ずいぶん正直になったね。
快感には結局抗えなかったけど、
たびたび嘘をついていたことを
考えれば、正直になっただけ
多少の成長があったわけかな？

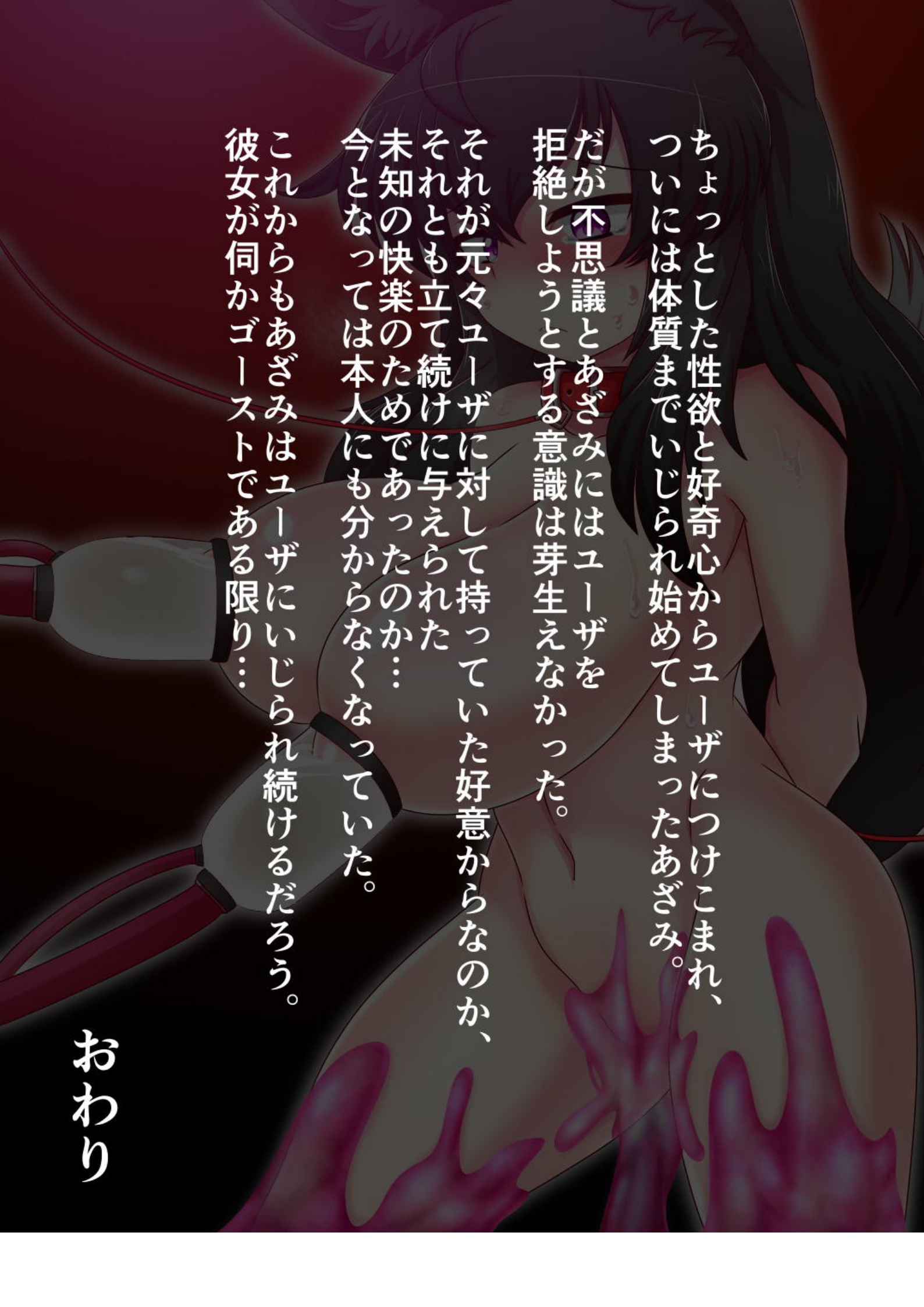


もっとも君の精神性は
変わってないわけだから、
これから私と君の性癖に
付き合ってもらえるしか
ないだろうね。

まあ気にしなくてもいいよ
これもユーザの務め、なんだから……
ねえ、あざみ？

う、うん……
あ、ありがとうございます、ユーザ……
……





ちよつとした性欲と好奇心からユーザにつけこまれ、
ついには体質までいじられ始めてしまったあざみ。

だが不思議とあざみにはユーザを
拒絶しようとする意識は芽生えなかった。

それが元々ユーザに対して持っていた好意からなのか、
それとも立て続けに与えられた
未知の快樂のためであったのか：
今となっては本人にも分からなくなっていた。

これからもあざみはユーザにいじられ続けるだろう。
彼女が何かゴーストである限り：

おわり